



善正寺だより

掲示板法話

老苦、病苦を抱えつつも

安んじて生かされる道が開かれている

戦後六十九年目の八月が巡ってきました。私は、生まれてからこの8月1日で、二万五千百三日、生かされて参りました。平均余命は、残り15.83年だそうです。(この計算は、インターネットの「磨くん、ドットコム」による)。それもあくまで平均ですから、保証の限りではない。一日一日を大切にせねばならない、と思います。お参りで会う人たちも私と同年代、あるいはそれ以上の年齢の人が多く、「老後の問題を抱えてどう生きるか?」がしばしば話題に上ります。先日、あるお参りの場で、「新聞の小説『親鸞・完結編』、ついに連載が終わりましたね」と話しかけられ、「新聞を一日も欠かさず切り抜いて保存しました」と1章ごとに綴った束を見せて頂きました。「2年後にお寺で親鸞さまの御法要が勤まりますので、親鸞さまのことを少しでも勉強しようと思いましたが」とお心の裡をお話下さいました。それがきっかけとなり、親鸞さまの話題が弾みました。

「善鸞さんを義絶なさった後も、親鸞さまは一生懸命書き物をなさったのですね。私たちとても真似できませんね」、「火事に遭われて弟さんのお寺へお住まいでしたから、老後の生活は随分不自由だったでしょうね」、「750年も昔、平均寿命は3、40歳くらいでしょう。人の倍も長生きされたのですね。氣力でしょうか」などと、小説を欠かさず読み続けて、親鸞さまを身近に感じ、自分自身の身に引き寄せて味わっておられるのは尊いことです。と喜ばせて頂きました。老いと共に、病を患ったり、大事な肉親、家族とも別れなければなりません。また、「寝た切りになりたくない」、「痴呆にはなりたくない」、「誰が衰えた自分の面倒を見てくれるのか」など、思い煩うのも無理からぬことではあります。しかし、善鸞事件や火災による移住など身辺の思うようにならぬ試練をも乗り越えて、「自然(じねん)のままにみ仏さまの世界に仏として生まれ変わる道が開けているのですよ」と身をもってお示しくくださったのが親鸞さまである。そのように思い直したら、老苦、病苦を抱えつつも安んじて生きていく道が開けてくるので

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

☆行事案内☆

秋季永代経

8月23(土) 午後1時半、夜7時半

24日(日) 午後1時半

講師：加藤正人先生(桑名市)



- ◇キッズサンガ 8月2日(土)午後4時お経ゲーム、鐘つき
- ◇三重組コーラス8/20西勝寺、8/29別院音楽祭バス

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。トップページの左欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が閲覧。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開開設丸6年で14万8千訪問、コメント、悩み相談、大歓迎!

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話7/21(月)から27(日)まで坊守が担当、8/4(月)から10(日)まで住職が担当。3分で法話が聞けます。

※新納骨堂が完成! 経堂をリニューアルしてご要望の多い新納骨堂として活用、総会后一般公開、お問い合わせは寺まで
 ※新役員決定! 門信徒会長伊崎武男氏、会計館勤氏、婦人部会長館正子氏、新年度三重組連研受講者・服部則男氏
 ※親鸞聖人750回大遠忌法要、平成28年5月15日に決定!
 2年後に迫りましたが、皆様の熱意とご協力の結集で、意義あるご法要にしましょう!



新お裏方 専如ご門主



長男敬さま

法統継承式(続)

はないでしょうか。私たちのご先祖方もこの道を歩まれたのだ。懐かしい方々を偲びつつ、そう味わう季節、お盆が巡ってきます。



本堂前に揃って記念撮影

写真アラカルト

鐘つきに集う
地域の子どもたち
本堂に向かって
“合掌、礼拝”



坊守スケッチ

十年後日本の家族はどうなる？



NHKラジオで、博報堂生活総合研究所の『大胆予測、百年後日本の家族はどうなる？』という番組を聞いた。視聴者の中で、百年後に生きている人は誰もいないが、大変興味深いテーマ。百年後と言わずとも、この十年先、日本の家族はどうなるのかという不安はある。周囲を見回せば、一人暮らしのお年寄りばかり。自分のことができるうちはいいが、いざ病気になるたら誰が面倒を見るのか？「そのために年金や介護保険がある」といっても無理。財政事情の厳しさから在宅介護を重視する改革案が提出された。今さえよけりやでは済まない現実。社会が何とかしてくれるという保証はない。

「私の家も後継ぎがないのよね」という諦めにも似た声が方々から聞こえる。子供はいても遠くに住み、当てにはできない。それどころか子供には迷惑をかけたくないと思う人が多い。いざ老人施設の世話になっても、自由気ままに生きてきた人同士が晩年一緒に住んで、居心地のいい筈がない。『介護』のみならず『子育て』の面でも、社会のサービスに頼りきるわけにはいかない。家族って一体何の為にいるのだろう？日本の家族の未来が心配になってきた。

超高齢独居老人世帯が増えて、全体の6割以上。特に女性の一人暮らしが多い。おひとり様世帯は、家族世帯の3倍。要介護者は800万人。そのうち認知症が300万人。脅威というか、介護地獄の厳しい現実が予測される。

十年後日本の家族の未来が明るいものになるのか、寂しく迎えるのか、今の私の生き方次第で決まる。

この先『家族力』の真価が問われる時代に突入する。『家族力』は、どうしたら磨かれるのか？

少子高齢化の時代に急に『家族力』と言われても、何から手を付けていいのか分からない。とりあえず「先祖がしていたように、地域の絆や家族の絆を確認する場を大事にすることだ。」

「困った時はお互い様」と助け合いの精神を復活させることだ。自分のいのちは自分一人のものではない。皆さんの御蔭で生かされているという『おかげさま』の心を若者にも伝えることだ。

『お互いさま』と『おかげさま』という二つの『感謝の心』をもつことが家族力アップの根本だろう。

かつては冠婚葬祭の付き合いや、法事の場合が家族力を養う貴重な機会であったが、昨今ではそれが無いがしろにされている。それに代わる教えの場が消えた。これが寂しい老後を迎える

背景だ。今元気な高齢者世代が、若い世代に唯一残せるものは、人生後半の生き方。かつての自己中心的な生き方を反省し、感謝の心で何事も実践するお手本を示そう。これこそが十年後の『新しい家族力磨き』だと思う。

☆寄稿

四日市市 釈 妙水
☆人見知り 後ずさりする児の 夏座敷

☆雑草の 生える勢い 夏に入る
☆蛭合戦 闇の中から 乱舞する 姫路市 釈 貞芳

☆喜寿までは お酒が親友
楽しんで 念仏する日も

☆若き日に わがまますれば 家族らが 悲しむを知り 念仏する癖

Eさんのいいもの紹介

☆浮き沈みしてこそやがて人となる
(清水の次郎長の言葉)

※苦難を乗り越えてこそ一人前になるという意味。80歳を過ぎ病を克服したEさんも、同じような感慨を持たれたのでしょうか。山あり谷ありの人生であればこそ、傲慢にもならず、他人に優しくなれるのでしょうか。(坊守)

☆ホットニュース

☆「善正寺門信徒会・年会費のお願い」小杉在所は担当行事さんが7月下旬から。大谷台・みゆきが丘・近辺住宅地は総代さんが8月10日の午前中。四日市市内と菰野町は住職と総代さんが8月7日、8日の夕方巡回します。ご協力よろしくお願い申し上げます。

☆5月25日の総会后、新納骨堂を一般公開しました。個別納骨檀を24基設置しました。お問い合わせは善正寺まで。見学もOK。

☆境内地共同トイレをリニューアル。男女の入り口を別々にして中に仕切り。女子用トイレを二つの洋式に変更。膝の悪い人が多くなったためです。

☆カンパ有難う☆

柴田美津代様、藤井美代子様、他匿名様より頂戴。感謝!

お悔やみ申し上げます

★服部貢様(7月7日亡・89歳)合掌

【平成26年度後半善正寺主な行事】

※8/23(土) 24(日) 『秋季永代経』(加藤正人師・桑名市)

※11/2(日) 午後と夜・3(月) 午前と午後(仏主催) 『報恩講』(大畠信隆師・大阪岸和田市)

※11/23午前秋勧進

※12/6(土) 夜 『お内仏報恩講』

◇毎月第3日曜日夜7時半より例会

☆編集子より ☆

「善正寺だより」第248号をお届けします。◇同年齢の二門主様が引退されて、若いつもりで走り続けてきた私も「老後」の生き方を考える契機になっています。だが同じ年齢の頃、父はまだ神戸で単身赴任中だった。そう思うと「甘えておれぬ」という思いが蘇る。◇子孫などに温もりや懐かしさが蘇るような老後でありたいと思うお盆が巡ってきた。合掌。

今年もお金の季節が巡ってまわりました。お仏壇のお墓もな
い家の子から「お金って何？」と尋ねられて「さあ知らない。故
郷に帰る日かな？」としか答えられない親達。東日本大震
災から「絆」が注目され始めました。横の絆や縦の絆、いろいろ
ありませうが「家族の絆」が一番基本でしょう。お金の季節
こそご先祖を偲び私の中の行く末を家族で考える
機会にしたいものです。NHKラジオの健康ライオンで「そばの
ひ孫と孫は優しい子かい？」納得」という標語を聞きました。
これは糖尿満などの生活習慣病を予防する食事療法
それにはマグネシウムを多く含む食材が最適です。和食が
その所以です。その食品の頭文字を並べたのが先の標語。
ソはそば、パはパン、ハはバナナ、クは海苔、ヒはひじき、マは豆、コは
五穀米、トは豆腐、モは抹茶、ゴは胡麻、ハはわか
や、ハは野菜、サは魚、シは椎茸、イはイチヂク、コは
昆布、カは牡蠣、イは芋、ナは納豆、トはとうもろ
こし、クはくるみ。これらの食材をバランスよく食べて
規則正しい生活、適度な運動、ストレスを貯めず
上手に発散することで健康寿命が延びるそうです。
それと誰かのお役に立つという奉仕の心も大切ですね。
バランスよい和食、まろしく「おふくろの味」の実践ですね。
お金とは先祖や親のご恩に感謝し、「おふくろの味を
噛みしめる日もあるぞんぞん」。8月23・24日永代経(加
藤正人先生) 皆様ののご参加諸お待た申しあげます。

平成二十六年八月 合掌 善正寺方守 拝